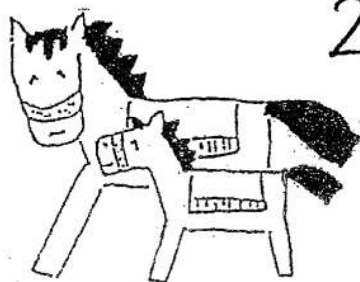


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリポックリと。

20年 11月 NO.168



〒 760-0044

香川県高松市御坊町2-2

高松保育園内 地域子育て支援センター

TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857

<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～ 11月のプログラム～お気軽にどうぞ～

11月 8日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
11月 14日	金	園にて七・五・三のお祝い 10:00～11:00	お子さまの成長を園児と お祝いする行事にどうぞ。
11月 16日	日	「お父さんのための子育て研修」 14:00～16:00	四国で初めてのお父さん応援の研修 です。(申し込み.Tel.821-5241堀へ)
11月 22日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も育児体験に おいで下さい。
11月 26日	水	健康・育児相談 10:30～11:30	小児科園医師にゆっくり 相談できます。(要予約)
11月 27日	木	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	紙芝居や絵本、語りなど、 講師からご指導をいただきます。
11月 29日	土	リフレッシュ講座 14:00～16:00	簡単なエアロビックで体を動かして みましょう。(託児予約要)

園庭開放 (13:30～15:00)

11月 6日 (木) 「わはは」より参加

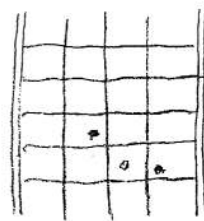
出前保育 (11:00～12:00)

11月 11日 (火) 子育て“ほっと”ステーション
もこもこ (上之町 TEL:868-2251)

育児相談 (月～土) 9:00～18:00

しつけや子育てについての悩み、
保育園生活、入園・見学について
の相談もどうぞ。

障子



お部屋の障子は、ビルディング。

しろいきれいな石づくり、
空まで届く十二階、
お部屋のかずは、四十八。

一つの部屋に蠅がいて、
はえ

あとのお部屋はみんな空。
から

四十七間の部屋部屋へ、
ま
誰がはいってくるのやら。

ひとつつひらいたあの窓を、
どんな子供がのぞくやら。

窓はいつだか、すねたとき、
指でわたしがあけた窓。

ひとり日永にながめてりや、
ひなが
そこからみえる青空が、
ちらりと影になりました。

高松市医師会看護専門学校の実習記録より

ことりぐみ (乳児) の実習をして

2日間の実習で子どもたちの笑顔を見てると自分の心がなごみ自然と表情もおだやかになってくることを感じた。今回「笑顔」をいっぱいもらって、今度の看護にも生かしていけるよう心がけていこうと思う。私たちが安心して働けるのも保育園があって保育士が保護者にかわって母親、父親役を行ってくれるから安心して仕事ができるのだと改めて実感した。

ことりぐみで大事なことは

- ① 子どもたちは泣くことでしか訴えることができないため、その“泣き”に適切に対応できるか。その対応から信頼関係が生まれてくるため何を訴えているか見きわめることが大切。
- ② 正しい生活リズムをつくりスキンシップを大切にすることで愛着形成を育てていく。
- ③ 月齢差によって個々の能力に差があるため、発達段階をしっかりと学習し、それに応じた対応を行い能力を伸ばし、ステップアップできるように接していく。
- ④ 園児だけでなく家族ともコミュニケーションを図り、情報交換を行い、社会と家庭を結ぶ役わりを担い子育て支援していく必要がある。

つくしぐみ (1才児の小さいクラス)

多人数のこどもを一度に一つの部屋で見ることの大変さ、予期せぬ事が起こる危険さ、自分たちの行為一つ一つ見て子どもは成長しているということの重大さを学ぶことができました。1日の流れがとても早く感じてしまう位、本当に保育園は大変ということを知り、学びの多い1日でした。年齢だけでなく、月齢でも成長に差が出て、同じ教室ですごすことが心配になったり、子ども一人一人の家族背景がちがう分、一人一人が抱えるストレスなどもちがって、落ち着きのない子やとてもおとなしい子がいたり、保育士さんのこどもに対する関わりはとても重要であることを学びました。

食事や排泄、おひるね、着替えなどの手伝いをしながら、こどもの観察を行い、何か変化があればすぐに反応するそのす早さは本当にすばらしかったです。

こども一人一人の性格を理解し遊びを行ったり、一人一人の記録を家族に伝えるようことばをえらんで連絡帳に記入したり、こどもと家族との調整を行っていて、保育士さんの役割というのはとても大きいということがわかりました。



つぼみ赤ぐみ (2才児) の実習をして

子どもが自己決定し、遊びたいおもちゃで遊ぶという保育があり、私は積木をしている子どもと遊んだ。積木を想像もつかないようなくみたて方をしたり、楽器のように遊んだり創造性豊かだと思った。2日間であったが、家庭とはちがって集団生活でのルールの習得、子ども同士の交流が発達に重要な意味を持つのだと思った。

児童福祉施設基準および保育指針に基づいて年齢や子どもの個人差などを考慮した上で保育の方向、ねらい、季節、行事などをおりまぜて、1日の保育の流れから日案をつくる。1週間の保育内容をまとめた週案、1ヶ月の保育内容をまとめた月案をもとに保育をすすめている。

さくら (3才児) の実習をして

仏教の教えが分かりやすく取り入れられ、しぜんと他人をいたわり、物事に感謝できるような環境であった。営利主義の現代にともすると欠ける大切なことを学べ、子どもの豊かな人格形成につながると考えられる。

プリキョアごっこや怪じゅうごっこというような動き回る遊びをする子や、ブロックを積む子などいろいろしていた。一人の子が顔にむかって遊びでパンチをして来た時に女の子が「こいかなのであやまろう」というと男の子も「ごめんなさい」と一言言ってまたみんなで遊んでいた。3才頃では仲間との情緒的交流が始まり、他人を思いやる行動もみられるため、この行動がみられたと考える。

ほとぐみ (1才児の大きいクラス)

1日目は子どもとのふれあう機会が少ない私にとってとてもハードに感じた。しかし2日目は子どもたちと接するうちに自分が笑って話しかけていくことで子どもたちも笑って遊んでくれるのだと感じた。1日目と比べて2日目の方が子どもたちの笑ってくれる回数も増えていた。コミュニケーションを良好にしていくこと、日数を重ねていくことでよりよい信頼関係ができるのだということを学んだ。

保育士さんの子どもの気に向かせるような上手なお話の仕方、絵本の読み聞かせの仕方、子どもと約束や躰をするときの話の仕方など心からひきつけられました。



つぼみ青ぐみ (2才児) の実習をして

2日間を通して保育士の責任ある業務の大変さを学びました。しかし、その中で子どもたちの1日の生活をともにしてみても、それぞれの子どもたちの表情やことばに日々成長しているのだと感じることが出来る場面もあり、人を育てる仕事のすばらしさも感じる事ができ、大変さの中にもよろこびを発見できました。看護師も人を看る仕事ですが専門的知識、経験、技術を身につける重要性を再度認識しました。

表には出ないこどものサインにも気付くための専門的な観察が必要であるとかんじた。

独占欲が非常に強く他の子どもを力ずくでおしのけてまで自分で遊んでほしがる子に対し、暴力的な行為を止めさせるために効果的にしかり、人の気持ちを考えさせることはとてもむずかしかった。

ほし (4才児) の実習をして

同じほしぐみの中でも聞く態度や集中力に個人差がみられた。話を聞かずにいる時は、手を叩いたり、名前をよんだりして注意を促したり、また言った事の内容がわかっているか幼児に聞くこともあった。発達段階にも個人差があるが、臨機応変に対応し、幼児が混乱しないように統一した態度で接しなければならぬと思った。

子どもにとって遊びは目的のもとに行うのではなく自由で、自発的な活動である。幼児は遊びを通じて健全な心と体の成熟をとげ、社会性を獲得していく。遊びは子どもの発達と密接にかかわりながら変化する。

子ども同士の遊びが豊かに展開していくと、子どもは仲間といることのよろこびや楽しさを感じるようになり、仲間とのつながりが深まっていくと同時に競争心も生まれ、ケンカも多くなる。自己主張をぶつけ合い、悔しい思いを経験しながら相手の主張を受け入れたりする。自分の主張を受け入れてもらったという経験をつみかさねることにより、他者と協調して生活していくということを学んでいる。

すみれ (5才児) の実習をして

この時期の特徴として

- ① 友達と目的を持って相談したり役割を分担したりして、活動を進めることを楽しむ。
- ② 生活の中である程度見通しがもてるようになる。
- ③ 色々なことに疑問を持って試したり工夫したりすることが盛んになる。
- ④ ルールのある遊びに参加して、身体を力いっぱい動かすことを楽しむ。

主な活動として、(鬼ごっこ、鉄棒、登り棒、すべり台などの遊具、砂場遊びなど) クッキングや制作活動など巧緻性が問われ、成長発達に応じての観察が行えた。意欲、関心、技能においても差が出てきている。

クラスの中でそれぞれの役割が決まっており、はじめやめりはりのある行動が求められる。このような集団での活動の高まりとともに、子どもは仲間の中で様々な葛藤を体験しながら成長すると考えられる。そして次第に友だち、仲間が必要であることを実感し仲間の中の一人としての自覚が育ち自分への自信につながっていくと考える。

ことしの1月に岡山から広島へ転居された当園出身(今は小3の女の子)のEさん(母)からこのようなお手紙をいただきました。

ここ、広島は世界で初めて原子爆弾による被害を受けた街です。そういった話を小さい頃から聞く機会が多い為なのか、子ども達の中でも励ましあいや助け合いの心が根付いていて、優しい子ども達が多いような感じがしました。

広島に来て、まず初めに娘と一緒に平和記念公園、原爆ドームに行ってきました。言わずと知れたこの原爆ドームは原爆の恐ろしさ、悲惨さを人々に伝えていく重要な建物として、また核兵器廃絶と恒久平和を求める誓いのシンボルとして保存されています。爆風によって屋根の鉄骨がむき出しにされ、崩れ落ちた瓦礫がそのままの状態です。静かに佇み、近隣の鳩たちの憩いの場となっているようで、沢山の鳩が鉄骨や窓で羽を休めていました。その光景を見て改めて、今の平和は多くの尊い人々の犠牲の上に成り立っているのだと実感しました。

平和記念資料館では、戦時中、原爆投下後の生々しい写真や、人形などが数多く展示されていたので、娘は何度も目を逸らしたり怖がっていたのですが、公園内の「原爆の子の像(別名:千羽鶴の塔)」近くにある、日本各地からだけでなく全世界から送られて来た千羽鶴とそれらを折った方々のメッセージは、何かを感じたのか真剣に見ていました。また公園内にはたくさんの慰霊碑や記念碑があって碑に書いてある言葉を読んでいると涙が溢れそうになり、静かに手を合わせて恒久平和を祈るばかりでした。中でも『原爆死没者慰霊碑』には「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませんから」という碑文が刻まれていて心に響きました。その慰霊碑の後ろには『平和の火』があり、その火は世界中の核兵器が無くなった時に初めて消えるのだそうです。

一刻も早く、世界の国が全ての核を廃絶し、火が消えて本当の意味で犠牲にとなった方々が安らかに眠ることが出来、また遺族の方々や今も世界各地で戦火に脅かされている人々が安心して平和に暮せる日が来る事を切に願います。

別記の「ねがい」は、広島から世界平和を願って作られた素晴らしい歌です。最初は4番までだったのが、世界中の平和を願う人達から5番目の歌詞が寄せられ続け、今ではなんと1432番!まであり30カ国36言語の国と地域の有志が翻訳もされているそうです。たとえ1人が出来る事は小さくても、こうして多くの人々の些細な願いが集まれば、やがては大きな想いと成っていつしかその輪が繋がり世界が平和になるんだと信じたいです。

「ねがい」 作詞: 広島市大州中学校3年生有志

1. もしもこの頭上に 落とされたものが
ミサイルではなく 本やノートであったなら
無知や偏見から 解放されて
きみは戦うことをやめるだろう

2. もしもこの地上に 響きあうものが
爆音ではなく 歌の調べであったなら
恐怖や憎しみに 囚われないで
人は自由の歌を うたうだろう

3. もしもこの足下に 植えられたものが
地雷ではなく 小麦の種であったなら
飢えや争いに 苦しまないで
共に分かち合って 暮らすだろう

4. もしもひとつだけ ねがい 叶うならば
戦争捨てて 世界に愛と平和を
このねがい 叶うまで 人類(わたしたち)は
歩みつづけることを やめないだろう